

第三者評価結果

事業所名：トライアングル スマイル

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント> 全体的な計画は、児童福祉法や保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成しており、養護における生命の保持と情緒の安定、教育についてのねらいと内容を年齢ごとに明記しています。また、園の保育理念や保育姿勢、保育目標に基づいて、年齢ごとの発達過程に応じた保育内容と配慮事項を設定しているほか、食育の内容、保護者や地域との連携などについて記載しています。年度末に行う職員会議では、各クラスの保育実践を振り返りながら、指導計画の評価を行うほか、行事や地域支援の取り組み、保護者対応などについて意見交換を通して振り返りを行い、全体的な計画の見直しにつなげて、変更が必要な箇所や追記事項などを検討しています。職員会議で出された意見や提案を取りまとめ、園長と主任が中心となって次年度の全体的な計画を完成させ、職員全体に周知しています。職員は、全体的な計画に基づき、各クラスの年間指導計画や食育計画、保健計画の作成を行っています。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント> 園舎内に換気システムを整備し、保育室には温湿度計、空気清浄機などを設置して常に適切な状態を保てるようにしています。おもちゃや備品、寝具などの消毒と手洗い場、トイレなどの各場所の清掃、消毒は決められた手順に基づいて行っています。1~5歳児クラスの保育室はワンフロアで、全体を見渡せるように背の低い棚を用いてクラスを仕切っており、大きな窓からは適度に陽光を取り入れて明るく広々とした空間となっています。活動内容や子どもの動きを考慮してテーブルやイスなどの配置を変更し、収納場所や棚の上の整理整頓を行って、子どもたちが安全に過ごせるよう配慮しています。マットや手作りの仕切りを利用してコーナーを作り、落ち着いてくつろげるようにしているほか、気持ちの切り替えが必要な時には、医務室や廊下の一角などを使ってクールダウンできるようにしています。食事と睡眠の場所を分けるなどスペースづくりを工夫して子どもたちが心地よく生活できるようにしています。</p>	
<p>A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント> 全クラスで子ども一人ひとりの「個別日誌」を作成し、日々の子どもの状況や成長の姿を丁寧に記録して職員間で共有しています。クラスミーティングでは、職員間で子どもの様子を伝え合い、一人ひとりの個人差を十分把握できるようにしています。職員は、子どもの個性を尊重し、一人ひとりの状況に応じて援助を行えるよう、時間に余裕を持って指導計画を作成しています。子どもと一緒に遊ぶ楽しさを共有しながら、気持ちに寄り添い、子どもが納得できるよう関わりを持つことを大切にしています。訪問調査日には、2歳児クラスの子どもたちが、散歩に出かける準備をしている中で、ぐずっていた子どもを保育士が優しく抱っこし、気持ちを落ち着かせてから自分のペースで散歩の準備を始められるよう援助していました。職員会議では不適切な保育に関する事例を採り上げて、子どもへの対応方法や声かけ方法について意見交換を行って学び合い、否定的な言葉は使わないことなどを職員間で共通認識として保育にあたっています。</p>	
<p>A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント> 基本的な生活習慣の習得にあたっては、一人ひとりの発達段階に応じて無理なく進めていき、子どもが自分でやろうとする気持ちを受け止めて援助を行うことを大切にしています。職員は、子ども一人ひとりの状況を共有し、同じ対応を行えるよう心がけ、子どもが安心して自分のペースで取り組めるようにしています。朝のしたくなどの手順を絵カードを用いてわかりやすく伝えたり、一緒にままごと遊びをする中で衣服のたたみ方を教えたり、子どもが遊びや生活を通して楽しみながら習得できるよう工夫しています。子どもが集中して取り組んでいる時などは、優しく見守り、自分でできた時には、ほめる言葉かけをして達成感を共有し、子どもの意欲を引き出しながら次の段階に進めるよう援助しています。保健指導では、病気を予防するために手洗いやうがいが必要なことを絵本などを用いて伝えています。日々の活動内容は、静と動のバランスを考慮して立案し、一人ひとりの体調や生活リズムに応じて休息を適切に取れるよう配慮しています。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント> 全クラスとも、戸外活動を中心に指導計画を立案し、遊びの中で子どもが進んで体を動かすことができるようにしています。園庭では、三輪車やボール遊びを楽しみ、木々豊かな近隣の公園では、木の実や虫を見つけるなど、自然を身近に感じながら遊んでいます。保育室では、マットを用いてコーナーをいくつか作り、ブロックやごっこ遊びなど好きな遊びを選べるよう環境構成を工夫しています。また、様々な素材や道具を準備して、子どもが製作遊びを通して自由に表現活動ができるようにしています。朝夕の合同保育の時間や朝の会、誕生会など、日常的に異年齢で過ごす時間が多くあり、年上の子どもが年下の子どもを自然と思いやる関係性を育てています。3～5歳児クラスで行っているお店屋さんごっこでは、どんな商品を作るか、みんなで相談しながら一緒に作り、友達と協力して活動する楽しさを味わえるようにしています。近隣の農家に芋掘りに出かけ、掘り方を教わるなど地域の人と触れ合う機会も設けています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 0歳児クラスの保育室は、1～5歳児クラスの保育室と少し離れた位置にあり、子どもが安心して静かに過ごせる環境となっています。畳のマットの上で座って遊んだり、寝転んだりできるようにし、安全に動き回れるゆとりとしたスペースも確保して発達段階に応じた環境整備を工夫しています。授乳やおむつ替えなどは、なるべく同じ職員が関わりを持ち、スキンシップを大切にして、喃語や表情から欲求をくみ取り、愛着関係を築けるようにしています。保育士は、看護師や栄養士と連携を密に図り、体調面や離乳食の進め方など個々の状況を日々共有して、丁寧な保育を実践しています。興味や関心を引き出せるよう音や触感を楽しめる手作りおもちゃを準備し、遊びを通して歌や絵本を身近に感じられるようにしています。訪問調査日の朝の会では、1、2歳児の子どもたちの元気な歌声に合わせて楽しそうに手をたたいたり、体を左右に動かしたりしている子どもたちの姿が確認できました。保護者とは、日々のやり取りの中で子どもの成長の様子を共有しています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 1、2歳児クラスでは、子どもが自由に動きながら好きなことを見つけられるよう、ゆとりとしたスペースを確保し、様々なおもちゃや絵本を準備して環境整備を行っています。戸外活動では、散歩で歩く距離を少しずつ長くして、体力増進を図りながら体を動かして遊ぶ楽しさを体験できるようにしています。1歳児から一人ひとりに動物や乗り物などのシールを準備して、ロッカーや帽子掛け、靴箱などに貼り、朝のしたくや散歩の準備などを自分で進んでできるよう工夫しています。訪問調査日には、保育士に見守られながら、自分で帽子をかぶったり靴下をはいたりして散歩に出かける準備をしている子どもたちの姿が確認できました。子ども同士の小さな揉め事の際は、気持ちに寄り添って双方の思いを聞き、「かして」「いいよ」など、子どもが自分の気持ちを表現できるよう援助しています。3～5歳児クラスのお店屋さんごっこでは、1、2歳児の子どもたちがお客さんになり、異年齢と一緒に楽しむ体験をしています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 3歳児クラスの子どもたちは、箸の使い方を覚えたり、当番活動で友達と協力し合って役割を果たしたり、小さな成功体験を日々積み重ねて成長しています。保育士は、できたことをほめて次につながるよう声をかけ援助しています。訪問調査日には、友達と一緒にいす運び、朝の会の準備をしている子どもたちの姿が確認できました。4、5歳児クラスでは、合同保育を中心にクラスでの活動も組み入れながら、保育内容を設定しています。4歳児の子どもたちは、朝の会の司会などの新しい役割や、自分たちでルールを作って遊ぶ楽しさを5歳児と一緒に活動する中で覚えていき、自分の力を発揮しながら成長しています。5歳児の子どもたちは、「おたのしみ保育」で夕食のカレーライスのクッキングをしているほか、クリスマス発表会では、5歳児で初めて習う鍵盤ハーモニカの合奏を披露するなど、みんなで一つのことをやり遂げる体験を通して成長しています。こうした子どもたちの活動内容については、園のホームページに掲載して地域に向けて発信しています。</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 園舎は段差のない造りとなっていて、エレベーターやみんなのトイレを設置しているほか、廊下にはスロープや手すりを整備して障がいのある子どもが安心して生活できるよう配慮しています。障害のある子どもに対しては、日々の個別日誌などに基づいて四半期ごとに個別の指導計画を作成し、子どもの成長の様子や今後に向けたねらいなどを詳細に記載して保育の実践に生かしています。個別指導計画はクラスの指導計画と関連づけて作成し、子どもの様子を見ながら遊びや生活の場面を通して子ども同士がともに成長できる関係性を築けるようにしています。保護者とは日々のやり取りのほか、必要に応じて個別に面談を行って子どもへの配慮事項などを共有しています。横浜市東部地域療育センターの巡回指導で助言を受け、民間の療育機関とも情報を共有して、子どもへの対応方法などを検討しているほか、外部研修に参加して子どもの発達障がいに関する知識を深められるよう努めています。園のこうした取り組みについては、保護者懇談会などを通して保護者に説明しています。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 園では、クラスごとに「デイリープログラム」を作成し、子どもの一日の生活に応じて職員が準備すべき事項や配慮のあり方を詳細に記載しています。また、月間指導計画には、長時間にわたる保育において、落ち着いて過ごせる環境づくりを行うことなどを明記し、それぞれの子どもの在園時間を考慮して保育の実践に生かしています。合同保育の時間帯は、異年齢で一緒に遊べるおもちゃを準備し、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるようにしています。年上の子どもが年下の子どもにおもちゃを貸したり、電車遊びを一緒にしながら線路を作ったりしています。職員は、子どもがさみしさを感じないように、ひざの上のせて絵本を読むなどスキンシップを心がけて対応しています。夕食は家庭で家族と一緒に食べてほしいという園の思いを保護者に伝え、降園時間に応じて18時30分頃に補食の提供を行っています。朝夕のどちらかには、担任職員が保護者と会えるようシフトを調整し、子どもの状況などを個別日誌や引き継ぎノートで共有して、保護者に伝え漏れがないよう努めています。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p><コメント> 5歳児クラスの指導計画に就学に向けた活動内容を記載して、子どもたちが様々な体験を通して自信につなげ、就学後の生活に見通しを持てるように保育を実践しています。友達同士で手紙を書き、読み書きやはがきの書き方を覚えたり、時計を見て時間を確認しながら片付けをしたりして、遊びや生活の中で楽しみながら文字や数字に親しめるようにしています。年明け過ぎから午睡の時間を徐々に減らして、就学に向けて生活リズムを整えられるようにしています。近隣の小学校では1年生に学校の中を案内してもらい、一緒に遊ぶなどして交流しているほか、近隣の園との年長児交流では5歳児の子ども同士が手紙で自己紹介をしたり、公園で一緒に遊んだりしています。保護者に対しては、懇談会で就学に向けた園の取り組み内容を伝え、個人面談で相談に対応するなどして配慮事項を確認しています。就学先の教員が来園して情報共有を行っており、保育所児童保育要録を担当が作成し、主任と園長が確認後、就学先の小学校に提出しています。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	第三者評価結果
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p><コメント> 「保育マニュアル」「デイリープログラム」に健康観察のポイントとタイミングを明記して、登園時や保育中の観察を行い、子ども一人ひとりの健康状態を的確に把握するよう努めています。看護師は、各クラスの子どもの情報を収集し、「保健日誌」に記載して日々の子どもの体調管理に生かしています。「年間保健計画」に保健活動の内容や年齢別の配慮事項などを実態に沿ってわかりやすく記載し、看護師と保育士が連携して子どもへの保健指導を実施しています。保育中の体調変化やけがの際は、速やかに園長、看護師に報告し、保護者へ電話連絡を行って対応方法を確認しています。予防接種や既往症に関する情報を保護者に伝えてもらい、「保健記録票」に追記して必要な職員で共有化を図っています。「保健だより」を毎月アプリで配信し、健康に関する園の取り組みについて保護者に伝えていきます。職員は、乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防策と発生時の対応方法を園内研修で学び合い、実践につなげています。また、保護者に対しても家庭でできる予防対策などを入園時に説明しています。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p><コメント> 園の嘱託医による健康診断と歯科健診をそれぞれ年2回ずつ実施し、身体測定を毎月実施しています。健康診断と歯科健診、身体測定の結果については「保健記録票」に記載して職員間で共有しています。連絡帳アプリに健診や身体測定の結果を記録できる機能があり、保護者への報告は連絡帳アプリを通じて行い、必要に応じて栄養指導などを実施しています。結果の内容によって、個別の対応が必要な場合は「個別指導計画」や「個別日誌」に記載して職員間で共有し、同じ対応を行えるようにしています。健康診断や歯科健診、身体測定の結果を受けて、保健指導の内容を見直し、次年度の「年間保健計画」の作成に反映させているほか、職員会議での話し合いに基づいて看護師が四半期ごとに保健計画の評価を記載し、より質の高い保健活動を行えるよう取り組んでいます。3~5歳児クラスでは、季節に応じた衣服の調整方法やけがをした時の対処方法を子どもにわかりやすく伝えていくほか、歯科健診の際に、歯科衛生士が歯の模型や紙芝居を使って、歯磨き指導を実施しています。</p>	

<p>A-1-(3)-③ 【A14】 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 厚生労働省の「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」と横浜市の「食物アレルギー対応マニュアル」に基づいて「アレルギー対応マニュアル」を作成しています。アレルギー疾患や慢性疾患のある子どもについては、入園時の面談で子どもの状況や保護者の意向を確認し、医師が記載した生活管理指導票に基づいて、適切な対応を行っています。食物アレルギーのある子どもについては、専用の献立表を作成して保護者の確認を得ているほか、栄養士が「アレルギー日誌」を作成し、献立の内容や除去食などについて記録しています。食事の提供は、色分けしたトレイや食器を用いて、必ず担任職員が配膳を行うこととしており、席の配置にも留意して事故防止に努めています。職員会議では、マニュアルに基づいて事故発生時の対応方法を確認しているほか、外部研修に参加して、アレルギー疾患に関する情報や知識を習得し実践に生かせるようにしています。食物アレルギーにおける園の対応については、入園のしおりに掲載して保護者に説明しています。</p>	
<p>A-1-(4) 食事</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>A-1-(4)-① 【A15】 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 「年間食育計画」を作成し、年齢に応じて野菜の栽培や芋掘りなど様々な活動を組み入れています。3~5歳児クラスでは、毎月「食育集会」を実施して、栄養士が三色食品群や体の働き、朝ごはんの大切さなどについて話したり、世界の料理を紹介したりして食について関心を深められようとしています。3月には、5歳児の子どもたちのリクエストメニューを提供する機会を設け、楽しく食事ができるよう工夫しています。食事の前に、絵本を読むなどして気持ちを落ち着かせ、和やかな雰囲気の中で食事ができるよう配慮しています。食器は、陶器を使用しており、茶碗やお皿の持ち方と置き方を伝え、食事のマナーを身に付けられるようにしています。職員は、子どもの状況を見ながら食事の量を加減して、食べられた時にはほめて完食できた喜びを味わえるよう援助しています。「給食だより」「献立表」を毎月アプリで配信し、献立のレシピを紹介しているほか、栄養士が懇談会に参加して味付けや調理の工夫などを保護者に直接伝えています。</p>	
<p>A-1-(4)-② 【A16】 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 栄養士は、子ども一人ひとりの成長曲線に基づいて給与栄養目標量の見直しを定期的実施し、子どもの成長に大切な鉄分などの栄養素を十分摂取できるよう献立作りを行っています。安全面を重視して、できるだけ国産で無農薬の食材を使用しているほか、季節感を大切に旬の食材を多く取り入れています。子どもの日や七夕などの行事食の日には、その由来を子どもにわかりやすく伝え、食文化を身近に感じられるようにしています。また、日本各地の郷土料理や世界各国の料理のメニューも取り入れています。栄養士は、給食の様子を見て回り、子どもとの会話を通して好き嫌いを把握しているほか、0歳児のそしゃくの様子などを確認し、一人ひとりに応じて食材の大きさや硬さを調整しています。毎月の食育ミーティングでは、喫食状況を保育士と共有して味付けや調理方法を改良し、よりおいしい食事を提供できるよう努めています。「給食衛生管理マニュアル」を整備し、給食室内の衛生管理と食材管理を適切に行っています。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>日々の登降園時の会話を大切に保護者との情報交換を行い、子どもの成長の様子を共有しています。連絡帳アプリでのやり取りは、0～2歳児クラスでは毎日行い、3歳児クラスでは週に1、2回ほど行っています。4、5歳児クラスでは、個別のやり取りを必要に応じて行っているほか、クラス活動の様子を連絡帳アプリを通じて、写真とコメントで毎日一斉に配信しています。園だよりとクラスだよりもアプリで月に一度配信しており、園の保育の方向性や各クラスのねらいなどを伝えています。保育参加は、6月、10月、1月に期間を設け、年に一度は参加してもらえるよう呼びかけており、子どもと一緒に遊びながら園での生活を知ってもらえる良い機会となっています。個人面談は、年に2回実施して、面談内容を「個人記録表」に詳細に記録しています。また、日常的なやり取りの中で職員間での共有が必要な場合なども「個人記録表」や「個別日誌」に記録して、適切な対応を職員全体で行えるようにしています。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>園長はじめ職員は、保護者との日々のコミュニケーションの中で、明るい雰囲気づくりを心がけ、丁寧に対応することを大切にしています。子育てなどの悩み事や不安な気持ちを受けとめて共感し、一緒に考えながら信頼関係を築けるよう努めています。保護者からの相談は、連絡帳アプリや園長に直接つながるメールを通して受け付けているほか、ゆっくり時間をかけて話を聞く場合は、保護者の都合に合わせて日時を設定し対応しています。体調面や食事についてなど、相談の内容によっては看護師や栄養士が専門的な立場から対応を行うなどしています。相談を受けた職員に園長や主任、先輩職員が対応方法について、アドバイスをしているほか、必要に応じて園長が同席して複数で対応するなどしています。職員は、保護者支援に関する外部研修に参加して、適切な対応を身に付けられるようにしています。受け付けた相談内容は、経過と対応結果などを「個人記録表」に詳細に記載して、必要な職員で共有し、継続的に支援を行えるよう努めています。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>「虐待対応マニュアル」に、虐待の定義や早期発見のポイント、発見時の対応フローなどを明記しています。職員会議ではマニュアルの読み合わせを行って発見時の対応方法を確認しているほか、外部研修に参加して虐待等権利侵害に関する知識を深め、実践に生かせるようにしています。職員は、登園時や保育中の着替えの時などに、体に傷やあざなどが無いか確認しているほか、持ち物や衣服の洗濯状況や子どもの言動などにも注意を払い、家庭における虐待等権利侵害の早期発見に努めています。子どもの様子などで気になることがあった場合は、保護者にさりげなく声をかけ、家庭の様子や就労状況、健康状態などを把握して、保育時間を延長するなどの必要な支援を行えるようにしています。家庭での虐待等権利侵害の可能性がある場合には、マニュアルに基づいて、園長、主任への報告と職員への周知、緊急の会議を速やかに実施して経過観察を行い、必要に応じて鶴見区こども家庭支援課や横浜市中心児童相談所への通報を行うこととしています。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>各クラスのミーティングで、保育日誌や個別日誌に基づいて日々の保育実践の振り返りを行い、週案や月間指導計画、年間指導計画の評価につなげています。保育実践の評価にあたっては、子どもが遊びや生活を通して達成感や満足感が得られたかなど、子どもの心の育ちや意欲に配慮して振り返りを行っています。各クラスの保育実践や評価内容は、月に一度の職員会議で伝え合い、意見交換を行って、次期の計画作成に生かせるようにしています。職員個々の自己評価は、年度末に実施しています。自己評価シートには園の基本姿勢、保育内容、保護者支援などの項目ごとにチェック内容が設定されており、巻末に各自の反省や課題、次年度に向けた目標を記載しています。園全体の自己評価は、保育実践の振り返りや職員個々の自己評価の結果を反映させて、年度末に実施しています。園では、自己評価の結果を踏まえて、園内研修の充実を図っており、職員からの提案を基に研修テーマを設定し、子どもの対応方法や環境構成などについて主体的に学び合うなどして取り組みを進めています。</p>	